

日・朝言語間語頭/k/と/p/対応について

石 井 博

0 はじめに

第18回カナダ・アメリカ言語学会 (LACUS) は、1991年夏、ミシガン大学 (Univ. of Michigan) で開かれた。そこで、私は“A Supplement to Martin's Lexical Evidence”を発表した。それは、Samuel E. Martin の論文“Lexical Evidence Relating Korean to Japanese” (1966) の日本語・朝鮮語対応音則に対する補則である。私は、両言語間の語彙対応証明を行う際には、努めて、Martin の設立した日本語・朝鮮語対応音則を用いて来ている。しかし、両言語間の語彙同根証明に当たり、幾つかの補則を立てる必要に迫まれて来た。その補則が十指に余る程となったので、これをまとめて発表したのである。

この補則のうち、日本語語頭/k/対応朝鮮語語頭/p/音則については(注)、多くの疑問が発表後、会場の言語学者から寄せられる事を予測し、十分説明ができるように、これを補則の第一番目に、[補則1]として発表した。

私の予測に反し、[補則1]に対する疑問は、全く寄せられず、Carleton T. Hodge 博士 (Indiana Univ.) からは、日本語語頭/k/対応朝鮮語語頭/p/語彙が、祖形*pk- よりの分裂の可能性はないものかと示唆が与えられた。また、J. P. Maher 博士 (Northeastern Illinois Univ.) からは、それが/p/>/k/移行による可能性の示唆があった。

以下、ここにその[補則1]の語例を掲げる。なお、日本語語頭/p/対応朝鮮語語頭/k/の語例の存在にも、その後気付いたので、ここでそれを

[補則 1a] として、掲げる事にする。なお、日本語語中/k/と朝鮮語語中/p/の対応が、日本語タカイ（高い）と中期朝鮮語 noph- (id.) の語例から考えられる事は、「イネ（稲）の語源を探る」で (p.26-27), 既に、述べた通りである。

この両言語間の語頭/k/と/p/の対応が、果たして Hodge 博士が示唆した祖形 *pk- よりの分裂によるものか、または、Maher 博士の示唆した /p/ > /k/ 移行によるものかも調べてみたい。また、その過程でこれら両言語語頭/k/と/p/の原音がどんな子音であったのか推定も試みたい。

(注) 日本語ハ行音は、奈良時代頃までは上下唇を合わせて、/p-/と発音したと推定されている。その後、/Φ-/に転じ、江戸時代初期までにそれが続いたと言われている。そこで、本論は、便宜上、日本語ハ行音は全て、/p-/で表すようにしている。

1 日本語語頭/k/対応朝鮮語語頭/p/対応語例

1) J kusa (草) ~ MK phir (id.).

日本語語頭/k/と朝鮮語語頭/p/の対応の前提に、日本語 (=J) kusa (草) と中期朝鮮語 (=MK) phir (草) の対応証明を行うには、以下の課題があろう。即ち、

- (1) 日本語語中母音/u/と朝鮮語語中母音/i/の対応
- (2) 日本語語中子音/s/と朝鮮語語中・語末子音/r/の対応
- (3) 日本語語末母音/a/と朝鮮語語末/o/対応などがそれである。

このうち、(1) 日本語語中母音/u/と朝鮮語語中母音/i/の対応については、既に、Martin 音則 [21aa] が証明済である。同所に示される語例を引用するとすれば、J puku (吹く) ~ MK pil- (id.), J numa (沼) ~ kniph (id.), piyu (ひゆ) ~ K pirim (id.), J natu (夏) ~ MK nyarim (id.) などがあろう。

また、(2) 日本語語中子音/s/と朝鮮語語中・語末子音/r/の対応について

も、Martin の音則 [14c] が証明済みである。その語例を引用すると、J nose (乗せ) ~MK nara (渡し), J kosu (漉す) ~MK kəri- (id.), J asi (足) ~MK par (id.), J hosi (星) ~MK pyər (id.) などがある。

(3) 日本語語末母音/a/と朝鮮語語末/ø/対応については、Martin 音則 [23] が証明済みで、その語例を引用すると、J kuma (熊) ~MK kom (id.), J siba (柴) ~MK səp (id.), J sima (島) ~MK syəm (id.) などがあるろう。

なお、日本語クサ (草) により近い語形としては、中期朝鮮語 kizim (雑草) がある。語末 -m は名詞接尾辞だからである。

以上で、J kusa (草) ~MK phir (id.) との対応証明は、日本語語頭/k/と朝鮮語語頭/p/の対応が証明出来れば成立しよう。この為に、以下、日本語語頭/k/対応朝鮮語語頭/p/対応語例を更に掲げ、それをもってその対応証明とする。

2) J kago (籠) ~MK paku- [ni] (id.).

中期朝鮮語 paku-ni (籠) 語末 -ni は接尾辞かと思われる。例えば、「鶏林類事」に「猫曰鬼尼」とあり、koni と解説されているが (李崇寧 p.124), その語末 -ni も接尾辞かと思われる。石戸方言 (埼玉) で老人達が猫をコゾ、満州語で kəʃ と呼ぶ事や (山本謙吾 p.107), トルコ語 kedi (猫) から、共通語幹 *ko- の存在が推定される。中期朝鮮語 koy (猫) も参考になろう。また、中期朝鮮語 koyəŋi (id.) は、koni (猫) + agi (子) からの転化形であろう (cf. 李崇寧 p.124,125)。朝鮮語 pəgeŋi (ひよこ), tokkeŋ (兎) にも語末にこの agi (子) が認められる。日本語ネコ (猫) は、中期朝鮮語 *koni (id.) の音位転換形か、koni (猫) + ko (子) よりの語頭 ko- 喪失形であろう。

なお、日本語カゴ (籠) は、ハコ (箱), フゴ (畚, フクロ (袋) と同根であろう。この日本語/k/と/p/交替については後述する。

3) J kusi (櫛) ~MK pis (id.).

4) J kuti (口) ~K puri (id) .

日本語語中子音/t/と朝鮮語語中子音/t/の対応については、Martin の対応音則 [12] がこれを証明する。その語例を引用すると、J pati (蜂) ~MK pār (id.), J wata (海) ~MK pār̄ (id.), J natu (夏) ~MK yər̄im (id.) などがある。

なお、復元百濟語では「口」は *kət̄ər (都守熙, p. 95) と日本語に近い。

5) OJ kura- [tani] (谷) ~MK pirə/pirəy (崖) .

日本各地の方言で山の斜面をヒラというが (小学館「日本国語大辞典」昭和50年参照), これは中期朝鮮語 pirə/pirəy (崖) に近い語義と語形である。また、中期朝鮮語 kor (谷) は、上古日本語クラ・タニの kura- に対応しよう。従って、クラタニは同義語を重ねた重複語と言えよう。

復元百濟語では「谷」に *hol (都守熙 p. 460) があり、日本語ホリ (堀) に類似する。

6) J kuru- [busi] (蹠) ~MK par (足) .

日本語クルブシ (蹠) は「倭名類聚鈔」では、ツブアシとも見えるが、これは類義語を重ねた重複語であろう。クルブシの語頭クルは中期朝鮮語 karar (脚) に近い語形であろう。上古日本語クエ (蹴), 同様に足の動作を表すキ/ク (来), カケ (駆け) などと考え合わせると、クルブシのクルは「足」を意味すると思える。上古日本語クツ (胂) やカチ (徒) も、同根語であろう。

古代朝鮮語「脚」*kator より中期朝鮮語 karar に転化したと言われるから (李基文 p.97), 日本語カチ (徒) やカカト (蹠) に類似する。

7) J kuse (癖) ~MK par (足) .

朝鮮語 par (足) と pār̄s (癖) は同根語と思える。歩きざまには、かなりの個人差が認められるから、家族間ではその構成員の足音はかなり正確に聞き分ける事ができよう。

8) J kabe (壁) ~MK param (id.).

9) J kudari (下り) ~MK pithar (山坡) .

日本語タレ (垂れ) や地形の傾斜を表すタリ/タレは同根語と思われるので、日本語クダリ (下り) 語頭 ku- や、中期朝鮮語 pithar (山坡) や朝鮮語 pittur- (傾く) の語頭 pi- は接頭辞であろう。

10) J kuttuku (くっ付く) ~K puthi- (id.).

日本語クツクはツク (付く) さまが密着する事を意味する。両言語語頭 ku- と pu- は接頭辞であろう。

11) J kara- [ta] (空手) ~K pin- [son] (id.).

日本語語中 /r/ と朝鮮語語中語末 /n/ の対応については、前述 “A Supplement to Martin’s Lexical Evidence” の第9補則で発表したが、二三の例を上げれば、J puru- (古) ~MK hən- (id.), J ura (裏) ~MK anh (内), OJ kara-kuni (韓国) ~K han-kuk (id.), J karu- [ko] (軽子) ~K kar- [po] (売春婦) などがある。

12) J piro (尋) ~MK kir (id.).

13) J pura-koko/buranko (鞦韆) ~MK kiri (id.).

俳諧「春」の季語フラ・ココ (鞦韆) 語末ココは、オニ・ゴッコ/ママゴト・ゴッコにも認められるが、児戯を言う接尾辞である。

14) J abura (油) ~MK kirim (id.).

日本語アブラ (油) 語頭アは調音母音か。朝鮮語語末 -m は名詞接尾辞。

15) J katamuki (傾き) ~K pittur- (id.)

16) J keta (桁) ~K ppaetori (桁先) ?

両語の語根は中期朝鮮語 torh (桁) と同根であろう。日本語ケタ (桁) の語頭 ke- と、朝鮮語 ppaetori (桁先) の語頭 ppae- は接頭辞とも理解できるから、日本語語頭/k/対応朝鮮語語頭/p/対応語例としては、問題であろう。日・朝両語対応で、朝鮮語語末/r/の消失は、Martinの対応音則 [12b] がこれを証明する。語例を引用すれば、J taba (束) ~K tapar

(id.), J fi (火) ~ K pur (id.) などがある。

17) J kinu (絹) ~MK pitan (id.)

18) J kazari (飾り) ~MK piz- (id.)

なお、上の16) については、疑問点も残るので? を付した。

2 日本語語頭/p/対応朝鮮語語頭/k/対応語例

前章で挙げた日本語語頭/k/対応朝鮮語語頭/p/とは全く逆の対応例が認められるので、以下、その語例を掲げ、[複則1]に加えて、[複則1a]を設立したい。

1) J pa (刃) ~MK kar (刀) .

2) J pane (羽根) ~MK kis (id.).

日本語ハネの語末は、イハ・ネ (巖根), カキ・ネ (垣根) などの語末にも認められ、名詞接尾辞と思われる。

3) J puka- (深) ~MK kiph- (id.)?

中期朝鮮語 kiph- (深い) は、両言語間の/p/と/k/対応を考える上で興味深い語である。何故なら、復元百濟語 *korang (青) (都守熙 p.460) に対して、中期朝鮮語は phiri- (id.) だからである。また、日本語 puka- (深) と中期朝鮮語 kiph- (id.), 日本語 taka- (高) と中期朝鮮語 nophi-/nophay- (id.) を比較すると、両言語間に語中の/k/と/p/の対応もあるように考えられる。これは、又、別の機会に調べて見る事とする。

4) J pasa- [mi] (鋏) ~MK kazay/kasīy (id.).

5) J pasi- [ka] (芒) ~MK kasay (刺) .

6) J pa- [pa] (母) ~MK kas (妻) .

7) J puyu (冬) ~MK kyəir (id.).

8) J pana (花) ~MK kos (id.).

9) J pana (鼻) ~MK kos- [mır] (鼻水) .

10) J pa- [si] (愛し) ~MK koy (寵愛する) .

中期朝鮮語 koym (寵愛) 語末 -m は名詞接尾辞。

11) J pa (端) ~MK K_A (id.).

12) J -pa ([主格助詞] は) ~MK -ka (id.)

13) J pagu (剥ぐ) ~K kha- (id.) <MK pska- (id.)

14) peta (蓆) ~K kkokci (id.)?

15) J pimo (紐) ~MK kin (id.).

日本語オビ (帯) 語頭オはオスビ (襲) 語頭オと同じく乙類なので、中期朝鮮語 os に対応し、語末ビは「紐」を表ように思える。動詞オビ (蓆) は紐で物を身につける事を意味したのであろうか。

16) poru (掘る) ~MK kar- (耕す)

17) J pi (火) ~MK kup- (焼く)

日本語ケブ (煙) や中期朝鮮語 kur-s-tok (煙突) の語頭 kur- は、日本語ヒ (火)、中期朝鮮語 pīr (id.), 蒙古語 gal (id.) などと同根で、/p/と/k/の対応が認められる。

18) J biri ([卑語] 女/売春婦) ~MK kar- [po] (売春婦) .

日本語ビリは、卑語で「女/売春婦/女陰」を言う (『岩波古語辞典』)。また、卑語バイタ (売女) も、「女/女兒」を卑めて言う方言ビタ/ベッタラと共に、ビリと同根の可能性が高い (cf. J biri < J bita < J bittara ; J baita < *bi: ta < J bita)。

12世紀初頭の書物「鵝林類事」の「女兒曰宝姐」から「女兒」を「宝姐」と漢音で表わしているのが分かるが、それは、*pitar と解説されている (金芳漢 p.174)。この語は、これら日本語、ビタ/ベッタラに対応しよう。

中期朝鮮語 kas (妻) の原義は「女」を意味し、同根語に、中期朝鮮語 kannā- [nay] (女)、中期朝鮮語 ka- [thri] (雌 [雉]), 中期朝鮮語 ka si (妻/女)、中期朝鮮語 kasi- [nay] (女 [児]), 朝鮮語 kar- [po] (売春婦) などあろう。

3 日本語語頭/k/と/p/の交替

以上、日本語語頭/k/と朝鮮語語頭/p/, その逆、日本語語頭/p/対応朝鮮語語頭/k/対応語例をあげて、その対応証明を行い、[補則 1 a] を設けた。本章では、日本語にも語頭/k/と/p/の交替が認められるので、以下、それを例挙して、その原音がどんな子音であったのか探る手掛かりを求めたい。

1) J papa (母) ~J kaka (嬬)

日本語オフクロ (お袋) は「母親」の敬称であろうが、その形態素はオ・フ・ク・ロと分離でき、その語幹フクは pa・pa (母) から ka・ka (嬬) への交替過程を表す語形とも思える。語末ロは名詞接尾語であろう。

日本語「母」の方言に、ハカやアッパコがあるが (宮良当壯 p.12), これらの語形は、ハハ (母) からオ・フク・ロの語幹への転化を裏付けよう。なお、カカ/カカァ (嬬) は朝鮮語 kas (妻) の重複であろうが、その原義は「女」であろう。

2) J pako (箱) ~J kago (籠)

中期朝鮮語 koak (柩) は、現代語では「箱」を意味するから (『現代朝鮮語辞典改訂』養徳社昭和55), 原義も「箱」と思われる。また、日本語フゴ (畚) やビク (魚籠) の交替形と思える。フク・ロ (袋) の語末ロはサク・ラ (桜) の語末と同じく接尾辞と思える。

文化発達史からみすと、編み籠や動物体の一部を袋として用いるのが最初で、箱の製作は文化がかなり進んでから作られている。

3) J pami (食み) ~J kami (噛み)

4) J pagi (剥ぎ) ~J kaki (掻き)

5) J pasibami (榛) ~J kasipa (榊)

6) J pasi- [duma] (愛妻) ~J kasi- [duki] (傳き)

7) J pisoka (密か) ~J kasuka (微か)

8) J pata (傍) ~J kata (片)

9) J -pa (〔主格助詞〕は) ~J -ga (〔主格助詞〕が) ?

10) J pi (日) ~J ka (id.)

11) J peta (蒂) ~J ketu (尻)

石戸方言 (埼玉) では、「尻/蒂」をケツベッタ/シリベッタとも言う。

また「肛門」をケツメンドと言う。

12) J poru (彫る) ~J kuru (剝る)

13) J piru (干る) ~J karu (潤る)

14) J pusi (節) ~J kosi (腰)

日本語で「ふしぶしが痛む」という事は、手足の関節と共に、腰の痛みも含まれよう。

4 語頭/k/と/p/の祖形

日・朝両言語間に認められる語頭/k/と/p/の対応は、その祖形が如何なる音であったかの問題を提起する。果たして、これら両言語が分離以前には、その祖形は*pk-であったのであろうか。それとも両言語語頭/k/と/p/の対応語彙は、いずれかの音からの転化によるものであろうか。

日本語ノホキリ (鋸) とノコギリ (鋸) では、文献上はノホキリが古形と言われている (『岩波古語辞典』)。すると、語中音ではあるが、/p/ > /k/となる。この仮定をコホリ (凍り) とコゴリ (凍り) に当て嵌めると、前者の語形より後者が生じた事となる。

文化発達史的には、製板技術がなくとも、カゴ (籠) は作れるから、/p/ > /k/とは逆の関係がハコ (箱) の語には生じた事になろう。しかし、フゴ (畚) やフクロ (袋) の語形もあるから、新たな容器、箱が創作された時、*pV_k [V] なる語がそれに転用されたとも思える。

また、「母親」の敬称、オフクロの語幹フクは pa・pa (母) から ka・ka (嬢) への交替過程を表す語形と思えるが、フクロ (袋) に意味を求めて、その母音が変化した語形と思える。日本語「母」の方言形、ハカや

アバッコ (宮良当社 p.12) が、それを証しよう。

日本語フカイ (深い) と中期朝鮮語 kiph- (深い) 対応の所で述べたが、百濟語 *korang (青) (都守熙 p.460) と中期朝鮮語 phiri- (id.) の語頭音が /k/ と /ph/, 百濟語 *aku (九) (都守熙 p.460) と中期朝鮮語 ahop (id.) の語中音が /k/ と /p/ に、百濟語 *turak (石) (都守熙 p.459) と中期朝鮮語 torh (id.) の語末音が /k/ と /p/ に相違する点がこの問題開明に一つの示唆を与えようである。

また、語頭 /h/ の漢語借用語が日本語と朝鮮語で如何なる音に転じているか見るのも、日・朝言語間の /k/ と /p/ 対応を探る上で参考となる。例えば、漢語 hiag (香) は、日本語ではカウと語頭 /k/ に転じるに対して、朝鮮語では hyag とほぼ、原音をとどめる。

日本語が漢語語頭 /h/ と /k/ と転じて借用している問題を考察する上で興味深い資料がある。それは、12世紀に日本人が書いた「二中暦」に見える高麗語数詞「一」がカタナと記されている事である。同書は、「鷄林類事」と、ほぼ同時代に書かれた書物と推定されるので (新村出 p.21-22)、日本人が「鷄林類事」の「一曰河屯」を如何に聞き取ったかを知るのに役立つ。「河屯」は、*hatan 又は、*hoton と解説されている (李基文 p.29)。この事も、日本人が聲門無聲音 /h/ と /k/ を混同する傾向がある事を証する。ついでながら、日本語ヒトツ (一) と中期朝鮮語 hanah (id.) の日・朝祖形は、古代トルコ語 bir (一) から見て、*phit- として問題なからう。

さて、文献史的に古い語形が、必ずしも、原音を止めているとも言えない。この問題検討には、同系言語との比較検討もなされねばならぬまい。と言っても、日本語ヒ (火) や、中期朝鮮語 pir (id.) の語頭 /p/ に対し、蒙古語 gal (id.) や古代トルコ語 kül (灰) の語頭 /k/ とで、いずれがアルタイ語祖形をよく保つかを割り出すのも困難な作業であろう。

Martin の日・朝対応 [音則 5], 日本語語頭 /k/ 対応朝鮮語 /h/ の確実な

対応例には、日本語コシ（腰）に対し、中期朝鮮語 *həri* (id.) 一例だけが挙げられている (Martin p.203)。その同根語に、トルコ語からは “*kiç* (rear), *kalça* (hip), *kuşak* (belt), *kuşat*-(gird) だけを挙げ、日・朝祖形を **xesi* (Martin p.245) として、その語頭音を軟口蓋無声摩擦音 /x/ としている。古代トルコ語 *bé:l* (腰) の存在を考慮に入れ、日・朝祖形を復元すると、**phuşi* (腰) と、語頭音を両唇閉錯無声帯気音 /ph/ としたい。日本語コシ（腰）とフシ（節）では同根の可能性が高いからである。従って、この事に限って言えば、J. P. Maher 博士の /p/ > /k/ 移行説が妥当となるう。

この他、[音則5] 対応例には、日本語クハ（鋤）と中期朝鮮語 *homay* (鋤) もあろう。それは、日本語カマ（鎌）とも対応する。朝鮮語 *homi* (草刈鎌) が参考となる。また、中期朝鮮語 *hapag* (窪) は落とし穴のような窪を言い、漢語「虚方」が当てられているが、日本語クボ（窪）と対応の可能性も高い。

さらに、[音則5] 対応例に日本語カミ（上）と中期朝鮮語 *hanar* (天) が加えられる。日本語内にも /n/ と /m/ の交替が認められている (大野晋・他 p.12)。なお、満州語 *abka* (天) 対応語 *アマ* (天) はカミ（上）語頭子音喪失語で、同例にカ（彼）>ア（彼）がある。

中期朝鮮語 *khin-* (大) と *han-* (id.), 主格助詞 *ga* と *han* は同根派生であろう。

日・朝語頭 /p/k/ 対応語彙の祖形が /ph/ であったとすれば、日本語と朝鮮語で、それぞれ、語頭 /p/ または /k/ 語彙となっても不思議ではあるまい。となれば、Hodge 博士の祖形 **pk-* よりの分裂も妥当となる。

恐らくは、日・朝両言語のそれぞれの長い言語史と、両言語間の密接な交流史にあったは、/ph/ > /k/ 移行と共に、/ph/ より /p-/ と /k/ に分裂も生じたと推定される。

本論を閉じるに当たって、1991年夏に私を韓国に招聘し、研究助成をし

ていくれた韓国国際文化協会に深く感謝致したい。また、私の論文発表時に Hodge 博士と Maher 博士からの受けた温かいご教示にも感謝の念を表明したい。

(本学理工学部教授)

略号と記号説明

> 記号の左側の語形より右側の語形に転化を示す

～ 対応を示す

id. 同義

J 日本語

MK 中期朝鮮語

p. 頁

参考文献

金敏洙「新国語学」一潮閣, 1983

金芳漢「韓国語文系統」民音社, 1983

都守熙「百濟語研究 (I)」, 百濟文化開発研究院, 1987

李基文著・藤本幸夫訳「韓国語の歴史」大修館, 1975

李崇寧「国語造語論攷」乙酉文化社, 1961

Martin, Samuel E., "Lexica Evidence Relating Korean to Japanese", *Language*, Vol. 42, No. 2, 1966

宮良当壮「宮良当壮全集 2」第一書房, 昭和59

新村出「新村出全集第一巻」筑摩書房, 昭和47

徐廷範「우리말의 뿌리」高麗苑, 1989

石井博, "イネ (稲) の語源を探る" *ILT NEWS*, 87号, 早稲田大学, 1990

山本謙吾「満州語口語基礎語彙集」東京外国語大学, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1969

大野晋・他「岩波古語辞典」岩波書店, 1974

天理大学朝鮮学科研究室編「現代朝鮮語辞典改訂」養徳社, 昭和55

劉昌惇「李朝語辞典」延世大学校出版部, 1964

藤堂明保「学研漢和大辞典」学習研究社, 昭和53

A SUPPLEMENT TO MARTIN'S LEXICAL EVIDENCE

Hiroshi Ishii

School of Science & Engineering, Waseda Univ.

Samuel E. Martin in his "Lexical Evidence Relating Korean to Japanese" mentions the possibility of Japanese tarapi (washtub) being cognate to Middle Korean taya (id.). He has, however, eliminated references to "washtub" in his list of correspondences, probably because he applied phoneme-correspondence "13" where he should have applied "11a"(*1).

In order to refute traditional as well as Ohtsuki's claim that J tarapi is a contraction of ta(hand)-arapi (washing)(*2), I proved J tara-pi cognate to MK taya by showing 9 cases of J /r/ corresponding to K /y/ (*) before I had had a chance to read Martin's classic paper. And in this paper, I will try to add a few more Japanese and Korean phoneme-correspondences to the great monument Martin has established in the comparison between Korean and Japanese.

#1. Japanese /K-/ corresponding to Korean /p-/

- 1) J Kusa (grass)~MK phir (id.) As for the Japanese /-s-/ and Korean /-r/ correspondence, refer to Martin's [14c].
- 2) J kago (basket)~MK paku (id.) cf. J pako (box)
- 3) J keta (beam)~K ppaetori (beam end) <MK torh (beam)
- 4) J kuti (mouth, faucet)~MK puri(bill, beak)
- 5) OJ kura-tani (vale)~MK piray (cliff) cf. Japanese Satuma dialect pira (id.) and MK kor (vale)
- 6) J kudari (descent)~MK pithar (slope) cf. tare (to dangle)
- 7) J katamuki (slant)~K pittur- (slanting)
- 8) J kuttuku (to stick to)~K puthi (id.)
- 9) J kuru-busi (ankle)~MK par (foot) cf. OJ kuwe (to kick), OJ kutu (shoe), OJ kati (on foot)

- 10) J kuse (bad habit)~K par (id.)~K pəri's (manners)
- 11) J kupa (hoe)~MK pərym
- 12) J kabe (wall)~MK param (id.)
- 13) J kinu (silk)~MK pitan (id.)
- 14) J kara-te (empty hand)~K pin-son (id.). As for Japanese intervocalic /-r-/ and Korean /-n(-)/, refer to #9.
- 15) J kazaru (to decorate)~MK piz- (id.)
- 16) J kusi (comb)~MK pis (id.)

#2. Japanese /p-/ corresponding to Korean /h-/

- 1) J pi (sun)~MK həy (id.)
- 2) J pi (fire)~MK hoay (torch)
- 3) J piru (daytime)~MK hara (a whole day)
- 4) J pisame (heavy rain)~MK hanpi (id.)
- 5) J piza (kneecap)~MK həthiy (leg)
- 6) J poro-bi (to perish)~MK hər- (id.)
- 7) J boro (rag)~MK hər- (id.)
- 8) J piki (short)~MK hyok- (little/narrow). In our dialect (Ishito dialect), when silkworms get matured and ready to spin cocoons, they become shorter, which are called "piki".
- 9) J pi (gutter)~MK hom (id.)
- 10) J bero (tongue)~MK hyə (id.)
- 11) J piku (to pull)~MK hyə- (id.)
- 12) J pundan (abundant)~K hincən (abundance)
- 13) JD (Ishito dialect) pito-daru (vat):MK han-nip (big leaf)

#3. Japanese /#-/ corresponding to Korean /k-/

- 1) J a (that)~MK kī (it)
- 2) J asi (reed)~MK kar (id.) as to Japanese /s/ and Korean /r/ correspondence, cf. [14c]
- 3) J apa (bubble)~K kəphum (id.)
- 4) J abi (to bathe)~MK kam- (id.)
- 5) J abara (ribs)~metathesis~K karpi (MK kar (ribs)~J gara
- 6) J aburu (to roast)~MK kup- (id.)~J kuberu - (to burn)
- 7) J ami (net)~MK kimīr (id.)
- 8) J aruku (walking)~MK kərim (id.)~ J ayumi (id.)
- 9) J itupari (lie)~K kəcismar (id.)

- 10) J iduru (to meddle)~K kāchi- (touch)
- 11) J use (to disappear)~K kāci- (id.)
- 12) J eda (branch)~MK kati (id.)
- 13) J erabu (to choose)~MK karhay- (id.)
- 14) J osimahi (end)~MK kizim (id.)

#4. Japanese /t-/ corresponding to Korean /s-/

Martin proves Japanese /t/ corresponds to Korean /s/ in intervocalic and final position. This correspondence also exists in initial position as well:

- 1) J toku (to explain)~MK saki- (id.)
- 2) J togi (companionship)~MK sakoy- (to associate)
- 3) J tanuki (raccoon dog)~MK sark (wild cat)(*4)
- 4) J tetu (iron)~MK soy (id.)
- 5) J tubi (vagina)~K ssip (id.). Vulgar K ssip(vagina) seems to be an intentional metathesis of K poci (id.), which is a taboo, which by saying backwards, the forbidden word might have lost its magic. K. poci and OJ pötö (id.) are also cognates, and OJ tubi (id.) would be an intentional metathesis with the same purpose.
- 6) J tatu (to stand)~K sə- (id.)
- 7) J tuyoi (strong)~MK səy- (id.)
- 8) J tate (length)~K sero (id.)
- 9) J te (hand)~MK son (id.)
- 10) J tosi (age)~MK sər (id.)
- 11) J tori (bird)~MK say (id.)
- 12) J matu-take (a mushroom)~MK sak (bud)~K ssak (id.)

#5. Japanese /m-/ corresponding to Korean /p-/

Martin proves Japanese /m/ corresponds to Korean /p/ in intervocalic and final position. This correspondence also exists in initial position as well:

- 1) J mutugi (baby clothes)~MK poroki (id.)
- 2) J miru (to see)~MK po- (id.)
- 3) OJ miko (basket)/ mika (urn)~MK pakoni (basket)
- 4) J mati (gore)~MK pati (skirt)
- 5) OJ mari (to excrete)~MK po- (id.)
- 6) J mama/manma (meal)~MK pap (id.)
- 7) OJ murasaki (purple)~MK pharar (blue/green). I am not sure why the Japanese word has the ending of -saki. it may correponds to MK sayk

(colour). But, I could not find other such examples.

- 8) J muku (to peel)~MK p̄ari (id.)
- 9) OJ magu-papi (coitus)~K ppakuri (id.).

#6. Japanese /n-/ corresponding to Korean /t-/

- 1) J na-wi (earthquake)~K tt̄aŋ (earth)
- 2) J nora (field)~K t̄ir (id.)
- 3) J nipa (garden)~K tt̄ir (id.)
- 4) J naru (to become)~K toy- (id.)
- 5) J noru (to ride)~K tha (id.)
- 6) J noroi (slow)~K tt̄i (id.)
- 7) OJ nopo-kiri (saw)~K thop (id.)
- 8) J nukui (warm)~K tik̄əp (very warm)
- 9) J nasi (pear)~K tare (a kind of pear)
- 10) J natume (Chinese date)~K t̄echu (id.)
- 11) J nado (etc.)~K tt̄auy (id.)
- 12) J nafu (to twine)~K tt̄ah- (id.)
- 13) J niru (to resemble)~K tarm- (id.)

#7. Japanese /n-/ corresponding to Korean /r(-)/

Shozaburo Kanazawa noticed interchangeability of intervocalic /-n-/ and /-r-/ and /-y-/ in the transcription of the old Korean place names (*5). I have also found that Japanese intervocalic /n/ corresponds to Korean intervocalic as well as final /r/:

- 1) J kona (powder)~MK k̄ar (id.)
- 2) J tuna (rope)~MK cur (id.)
- 3) J tanuki (raccoon dog)~MK sark (wild cat)
- 4) J hani (clay)~MK hark (id.)
- 5) J inu (dog)~K iri (wolf)
- 6) J mune (ridge)~MK mar (id.)
- 7) J kane (metal)~MK kuri (copper) cf. J aka-gane (id.)
- 8) J maneku (to invite)~K puri- (to call)
- 9) J sune (leg)~MK tari (id.)
- 10) J tanagi (attic)~K tarak (id.)
- 11) J yone (rice)~MK ȳar- (to bear fruit) cf. J tane (grain)

#8. Japanese /t-/ corresponding to Korean /n-/

MK nuyək (straw raincoat) and K torongi (id.) will be cognate as Kanazawa's theory of /n/r/y/ interchangeability explains.

- 1) J tosi (age)~MK nah (id.)
- 2) J tefu (butterfly)~MK napu (id.)
- 3) J tu (harbour)~MK nal
- 4) OJ ta (who)~MK nu (id.)
- 5) J turu (to fish)~MK naks- (id.)
- 6) J take (height)~MK nopp-/noph- (high)
- 7) OJ katori (a silk cloth)~MK kaninkip (id.)
- 8) J katabira (hemp garment)~MK kaninpoy (id.)
- 9) J tura (face)~MK nach (id.)
- 10) J tappa (height)~MK nophi (id.)

#9. Japanese intervocalic /-r-/ corresponaing to Korean /-n(-)/

- 1) J puru- (old)~MK hən- (id.)
- 2) J da-kara (therefore)~MK kani (id.)
- 3) J kara-miso (salty miso)~K kan (saltiness)
- 4) OJ kura-tani (valley)~MK konaysəy (in the valley)
- 5) J ura (inside)~MK anh (id.)
- 6) J sar-u (to go away)~K cina-(id.) As for Japanese /s-/ and Korean /c-/ correspondence, refer to Martin's [9b].
- 7) J gan (wild goose)~MK kīyrəyki (id.) cf. J kari/karigane (id.)
- 8) OJ kara-kuni (Korea)~K han-kuk (id.)
- 9) J karauso (outright lie)~K han- (great). J kara will be cognate to K han, though it is semantically influenced by its homonyms kara (dry/empty) as can be seen in J kara-kaze (strong dry wind), kara-ibari (bluff), and kara-sawagi (much ado about nothing).
- 10) J karu-wi (wild sow)~K kanna (loose woman) cf. siri-garu-onna(id., lit. woman with light buttocks). K kar-po (whore) and J karu-ko (woman-pimp) will be cognate.

#10. Japanese /-i-/ corresponaing to Korean /-a-/

- 1) J pi (sun)~MK hay (id.)
- 2) J pi (fire)~MK hoay (torch)
- 3) J piru (daytime)~MK hara (a while day)
- 4) J sisi (flesh)~MK sar (skin)

- 5) J pidi (elbow)~MK parh (id.)
- 6) J ani (why)~MK əna (id.)
- 7) J pari (needle)~MK panar (id.)
- 8) J piro (fathom)~MK par (id.)
- 9) J sidyuu/syocuu (often)~MK caco (id.)~K cacu (id.)
- 10) J mituru (to be worn out)~MK maɾa (id.)
- 11) J siraberu (examine)~MK sarphi (id.)

#11. Japanese /-u-/ corresponaing to Korean /-i-/

- 1) J tepu (butterfly)~K napi (id.)
- 2) J inu (dog)~K iri (wolf)
- 3) J tuba (saliva)~K chim (id.)
- 4) J kura (saddle)~MK kirima (id.)
- 5) J o-tuke (miso-soup)~K ccikae (pot-stew)
- 6) J tuma (skirt)~MK chima (id.)
- 7) J utu (to hit)~MK chi (id.)

#12. Japanese /-u-/ corresponaing to Korean /-i-/

- 1) J piyu (barnyard grass)~MK pirim (id.)
- 2) J idura (where)~MK ətirə (id.)
- 3) J suru (to lose)~MK sir (id.)
- 4) J iburu (to smolder)~MK pil (fire)
- 5) J musu (to steam)~MK mil (water)
- 6) J susugu (to wash)~MK sisil (id.)

#13. Japanese /-u-/ corresponaing to Korean /-ay-/ay/

- 1) J su (vinegar)~MK say (sour)
- 2) J su (opening)~MK say (id.)
- 3) J -su (suffix for birds)~MK say (bird)
- 4) J suki (spade)~MK sayki (to carve)
- 5) J sune (to sulk)~MK sayo (jealous)
- 6) J sugaru (to copulate)~MK sayhīrəy (id.)

#14. Japanese /-i-/ corresponaing to Korean #

- 1) J kuzi (lot)~MK mut-kiri (fortune-telling)~K kus (exorcism) cf. J mizu-kori (water ablutions)
- 2) J puti (deep water)~MK mot (pond)

- 3) J pari (needle)~MK panar (id.)
- 4) J siki (formula)~MK sik (id.) cf. Chinese 式
- 5) J ipi (meal)~MK pap (id.)
- 6) J adi (taste)~MK mas (id.)
- 7) J tutumi (package)~K ssam (rice wrapped in leaves)
- 8) J tanuki (raccoon dog)~MK sark (wild cat)
- 9) J simi (clothes moth)~K com (id.)
- 10) J kusi (comb)~MK pis (id.)

I hope the evidence shown above will be a useful contribution to furthering Martin's ground-breaking work to prove Japanese and Korean cognate relationship. In the list I have not taken the trouble applying Martin's corresponding laws to each morpheme of the words in order to save space: it will be easy to apply his laws and a supplement of mine to them.

REFERENCES AND NOTES

- *1 Samul E. Martin, Lexical Evidence Relating Korean to Japanese. Language, Vol. 42, No. 2 (1986).
- *2 Fumihiko Ohtsuki, Dai-gen-kai (Showa 7). cf. Martin (1986), p. 246.
- *3 Ishii, A Question on the Etymologies in the Japanese Dictionaries: Is tarahi (basin) an abridgement of ta (hand)-arahi (washing)? *Bulletin* 38, Institute of Language Teaching, Waseda Univ. (1989).
- *4 cf. 崔世珍「訓蒙字會」(1537)影印版, Seoul 汎文社, 1969, 「狸 sark ri 俗呼野猫」。In Japanese the same Chinese ideograph is read as "tanuki".
- *5 金沢庄三郎「日鮮同祖論」刀江書院, S 4, pp 157—160.